




## 再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道 <sup>しもだて</sup> 50号下館バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自： <sup>いばらきけんちくせいししもかわしま</sup> 茨城県筑西市下川島 至： <sup>いばらきけんちくせいしよこつか</sup> 茨城県筑西市横塚	延長	10.6km		
事業概要					
一般国道50号は、群馬県高崎市から茨城県水戸市に至る延長約150kmの首都圏北部の主要幹線道路である。下館バイパスは、中心市街地の混雑緩和と、それに伴う中心市街地へのアクセシビリティ強化や安全性向上を目的に進めている延長10.6kmの4車線のバイパス事業である。					
S61年度事業化		S58年度都市計画決定		H元年度用地着手	
H2年度工事着手					
全体事業費	約387億円	事業進捗率	75%	供用済延長	6.0km（暫定）
計画交通量	13,300～31,900台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.4  (残事業) 6.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 93/495億円 (事業費：64/462億円) (維持管理費：28/33億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 577/703億円 (走行時間短縮便益：496/623億円) (走行費用減少便益：55/59億円) (交通事故減少便益：26/21億円)	基準年	平成22年
感度分析の結果					
残事業について感度分析を実施					
交通量：B/C= 5.9～6.7（交通量 ±10%）					
事業費：B/C= 5.7～6.9（事業費 ±10%）					
事業期間：B/C= 5.2～6.7（事業期間±20%）					
事業の効果等					
(1) 交通混雑の緩和 ・下館バイパスの並行区間である国道50号現道を中心に、県平均の約5倍の渋滞が発生。 ・下館バイパスの整備により渋滞の緩和が見込まれる					
(2) 安全安心な通行の確保 ・玉戸工業団地内交差点付近で全国平均の約3.3倍の事故が発生。 ・下館バイパスの整備により、交通事故の減少が期待される。					
(3) 物流効率化の支援 ・北関東自動車道桜川筑西ICまでのアクセス性が向上し、物流機能が強化。					
関係する地方公共団体等の意見					
県知事の意見：一般国道50号下館バイパスは、筑西市内に混入する通過交通を分散し渋滞を緩和するとともに、安全確保が図られるばかりでなく、北関東自動車道桜川ICまでのアクセス性が向上し、物流機能の強化や地域産業の活性化に寄与することから、早期整備をお願いします。					
事業評価監視委員会の意見					
事業の継続を承認する。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
北関東自動車道が供用され、さらには、下館地区中心部においてシビックコア事業（約2.4ha、合同庁舎・美術館・事務所等の整備）が推進され市街地の活性化が進められた。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
平成22年度までに6.0kmを暫定2車線で供用。今後は整備効果の早期発現のため、バイパス区間残り1.4kmの暫定2車線整備を進め、引き続き、全線4車線化に向けて事業を進める。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
用地の取得は91%完了。引き続き全線4車線完成に向けた事業促進を図る。					
施設の構造や工法の変更等					
終点部の交差点形状の見直し（片立立交差点→平面交差点）により、事業費を約3億円縮減。					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由					
以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、コスト縮減の内容、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。					

事業概要図

凡 例	
	供 用 中
	事 業 中
	再 評 価 箇 所



- ※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
- ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。